

Hm助成支援団体のご紹介

アリスガーデンパフォーマンス広場事業実行委員会

事務局 いしまる よしみち 石丸 良道さん

<http://ahinfo.blog39.fc2.com/>

平成6年、広島市中区金座街の金座街地区市街地再開発事業によって誕生した西新天地公共広場「アリスガーデン」。“都会のおもちゃ箱”をコンセプトに、広島市都心部における魅力とにぎわいの発信の場として整備されました。しかし、整備後しばらくの間は、週末ごとに暴走族の集会が開かれる場として、度々全国にも報道されて、当初の目的である市民の憩いの場としての機能からは程遠い状態になっていました。そこで、こうしたイメージを払拭して、市民や観光客が安全に楽しめる広場づくりを目指し、平成16年4月に結成された団体が「アリスガーデンパフォーマンス広場事業実行委員会」です。

にぎわい創出、文化情報発信の拠点を目指して

結成から数年後には、広場に長時間滞留する人が増え、イベントを楽しむ観客も増えて、「安全・安心」の広場づくりという当初の目的は達成され、その後は、文化情報発信の活性化という目的にシフトしました。「委員会を立ち上げてしばらくすると、運営側の人手不足に悩みましたが、4、



▲「アリスガーデンパフォーマンス広場AH」での大書パフォーマンスの様子

5年前からは意欲的な若者が次々と加わりました。比例してイベントコンテンツも魅力溢れる内容に充実してきました」と事務局の石丸良道さんは語ります。

平成27年度も、ほぼ毎月主に第3土曜日の午後イベント「アリスガーデンパフォーマンス広場AH」を開催。毎回趣向を凝らしたテーマを設定、1回のイベントも時間を区切ってさまざまなプログラムを行うことで、観客を飽きさせない流れを作っています。その効果は、観客の滞在時間の長さや、幅広い世代が訪れることで、石丸さんを含め実行委員会のメンバーも実感しているそうです。また平成26年度からは、地元ラジオ番組とタイアップし、認知度とアピール力をアップさせることで、観客やイベントサポーターとのコミュニティ作りも図っています。

「まだまだ完成形だとは思っていません。観客を飽きさせないイベントコンテンツ作りに取り組むと同時に、バックアップしてくれるスタッフ・イベントサポーターを充実させ、広島の文化情報発信の拠点として、アリスガーデンが存在する形になれば」と、石丸さんは今後について語ってくれました。



▲「アリスガーデンパフォーマンス広場AH」での「Dance Dance Dance」バトルの様子

特定非営利活動法人虹橋の会

理事長 いわい うめこ 岩井 梅子さん

<http://njhsnk.com/>

和紙と和紙ちぎり絵を中国で広め、文化交流を図ることを目的に平成23年12月に結成したのが、「特定非営利活動法人虹橋の会」です。

もともとは、平成14年2月に結成された「虹日中文化交流会」が母体で、当時は和紙ちぎり絵の創作活動と、中国武術太極拳の普及や中国からの帰国者の支援、国際交流フェスティバル(ペアセロベ)等を通して、日本と中国の文化交流を図る3つを大きな目的に結成されました。

日本の伝統美が繋ぐ、国際交流の架け橋

NPO法人化後は、中国のものと多くの場所へ和紙と和紙ちぎり絵を広め、知ってもらうための活動に力を注ぎ、毎年、理事長を含め数人のメンバーが中国へ渡り、大連市、ハルビン市、成都市、重慶市など11都市17校の美術学院を訪れ、美術講師・大学生や小学校の美術の先生方に、和紙ちぎり絵を指導、さらには現地ですんだ人たちの作品を日本で展示するなどの活動を行っています。



▲袋町和紙ちぎり絵教室の様子

その他、週に2回ほど、

広島市中央公民館や周辺の小学校で和紙ちぎり絵教室や中国武術太極拳講座を開いている他、平和文化センターや公民館などで行われている国際交流イベントやフェスティバルなどにも参加しています。また、切り絵・折り紙・編み物など小学校・老人ホーム・公民館などでのレクリエーションもボランティアで行っています。

「四季折々の自然、風景、風物詩を描く和紙ちぎり絵。色鮮やかで、日本の伝統美を感じさせてくれるこの和紙ちぎり絵に、皆さんも強い好奇心と意欲を示してくれています。メンバーそれぞれが、この和紙ちぎり絵を通して日本固有の和の文化を大切にすることを学び、それをきっかけに、日本と中国両国の理解や友好の架け橋を築くことができればと願っています」と理事長の岩井梅子さんは語ります。

今後は、和紙ちぎり絵を通じた中国からの日本人帰国者の生涯学習ができる環境づくりと、若い世代の和紙ちぎり絵講師の育成に励むとともに、中国武術太極拳を日本で広めることなどに努め、メンバーが一丸となって日中友好に貢献したいと考えているそうです。



▲中国での和紙ちぎり絵交流の様子

特定非営利活動法人ヒューマン支援ネット

常任理事 よしむら よしこ 吉村 佳子さん

<https://www.facebook.com/humansienet/>

社会生活の改善と向上を目指し、人が人として尊重されいきいきと生活できる安全・安心な社会の構築、及び男女共同参画社会の実現と地域社会の発展に寄与することを目的に、平成25年6月に結成されたのが「特定非営利活動法人ヒューマン支援ネット」です。

「誰もが個性を活かし、未来に希望の持てる人生を応援します」をキャッチコピーに、わずか3人で任意団体立ち上げ準備会を結成。その後、趣旨に賛同し、活動のサポートをしてくれるメンバーが少しずつ増えて、2年余りで会員は40人まで膨らみました。メンバーそれぞれが、これまで生きてきた人生の中で体感したいろいろな経験を、次の世代にどう伝えて、活かしていくのか、真剣に考えて実践してくれています」と常任理事の吉村佳子さんは語ります。

弱者支援のために、大人の意識を変える活動を

男女共同参画社会の実現を目指して事業を展開することが団体活動の大きな柱ですが、高齢者問題、子どもの貧困問題、子育て支援などにも、男女共同参画推進の一環として取り組んでいます。団体として月2回程度集まって、情報・意見交換を展開。障がいを持つ子どもの健全育成を図る活動では、子どもの行動を、増やしたい行動・減らしたい行動・危険な行動の3つに分け

て、それぞれの行動に対する対処方法を学んでいます。よいところを見つけるコツ、褒めるコツや、子どもに伝わりやすく指示する方法や指示に従ったとき、従わなかった時の適切な対処方法など。これらを学ぶことで、子どもにとっても親にとっても、お互いにストレスが減るという効果が得られる観点に立って、毎年複数回の講座を聞くと同時に、ワークショップも行っています。

「安全・安心な社会が求められる今の時代。子どもの困りごとへの対処方法は、養育者はもちろんのこと、子育て支援者、地域住民の「声がけ」が大切になっています。子どもを取り巻く、まわりの大人たちが積極的に子どもに対する認知行動療法を学ぶ



▲ペアレントトレーニング(発達障がい児を持つ親のための子育てトレーニング法のひとつ)の様子



▲平成26年度の発達障がい児支援講座の様子(受講者が障がい児の立場に立ち折衝を折った時にどう感じるのかを体験)

ことで、子どもの困りごとを理解し、地域全体で子どもを見守り、安心して生活できる環境を作り出せれば、と考えています」と吉村さんは、今後について語ってくれました。

公益信託広島市
まちづくり活動支援基金
ひと・まち広島
未来づくりファンド
ふむふむ2
Hm

(公財)広島市文化財団では、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動を支援し、市民、企業、行政の協働によるまちづくりを推進するための仕組みづくりとして、公益信託による基金「ひと・まち広島未来づくりファンドHm(ふむふむ)」を設けています。

この基金は、豊かでいきいきとした市民社会づくりを目指すため、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動に対する助成事業を行っており、助成先は公開により、学識経験者などで構成する運営委員会が審査・選考を行います。

平成27年度助成団体や助成額等については、(公財)広島市文化財団ひと・まちネットワーク部のホームページでご覧いただけます。

また、基金では多くの皆様からの寄付をお願いします。

HP <http://www.cf.city.hiroshima.jp/hitomachi/>

寄付のお願い

ひと・まち広島未来づくりファンドHm(ふむふむ)は、市民・企業・行政等が力を合わせて、市民のまちづくり活動を長期にわたり支えていこうという基金です。現在、その基金を取り崩して助成を行っています。私たちの住む広島のまちをよりよくしていくために、できるだけ多くの皆さまからの寄付をお願いします。

振込先 広島銀行広島市役所支店/別段預金 No.3000017

口座名義 公益信託広島市まちづくり活動支援基金寄付金受入口
専用の振込用紙をご使用いただければ、手数料はかかりません(ただし、広島銀行の窓口からの振込に限ります)。広島銀行の振込用紙を使用、または他の金融機関からの振込の場合、手数料は自己負担となります。
※この公益信託への寄付に対して税の減免はございません。
※頂戴したご寄付は、毎月末日締めにて集計し、翌月の5日(休日の場合は翌営業日)に基金へ寄付させていただきます。



基金の愛称「Hm(ふむふむ)」とは…【ひと(Hito) まち(Machi) 広島(Hiroshima) 未来づくり(Mirai-zukuri) ファンド】の略で、頭文字(HMHM)をとって「ふむふむ」と読みます。【ひと】と【まち】をつなぎ、【広島】の【未来】を創造するファンドで、みんなが「ふむふむ」と納得しながら共感が広がっていくまちづくりをイメージしています。

名人宝人 達人

Interview 1

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。地域活動やまちづくりのお手伝いに、今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

たのしい腹話術
パネルシアター

とうほう だ ひろこ
東方田 浩子さん
たるたに えいこ
樽谷 英子さん



東方田浩子さん(左)と樽谷英子さん(右)

一度に2つのエンターテイメントを提供 観る人が楽しい時間を過ごすのが一番の喜び

腹話術とパネルシアターを組み合わせた活動をしているのが、安佐南区安公民館を拠点に活動する人形劇団「アヒル座」所属の、東方田浩子さんと樽谷英子さんのお二人です。

「人形の持つ可能性を追求したくて、人形劇が盛んな名古屋へ研修に行き、13年前に腹話術に出会いました」と腹話術を演じる東方田さん。はじめのうちは人形劇の幕間や職場行事などで披露。5年前に「日本パペットセラピー学会」そして、「日本腹話術師協会」に入会。そこで、あらためて腹話術の奥深さを感じ、インストラクターの資格を取るほどに夢中になったそうです。

一方のパネルシアターを演じる樽谷さんは、40年前、保育専門学校の授業でパネルシアターを初めて体験。それ以来、樽谷さん自身、幼稚園、デイサービス施設と職場は変わっていく中でも、機会があればパネルシアターを演じてきました。パ



▲腹話術を演じている東方田浩子さん

ネル布を貼った舞台上、お話や歌あそび、ゲーム等をするパネルシアターを、退職後のボランティアとして活動したいと思っている時に、人形劇団「アヒル座」を知り入団。そこで人形劇の前や幕間に演じる機会

を得ました。現在では単独で子育て支援の場や幼稚園等でも演じています。

お二人は、「自分たちが一緒に活動するともっと面白く、楽しくできるのでは?」と考え、平成25年にユニットとしての活動をスタート。活動の場を広げるために、東方田さん、樽谷さんはそれぞれ人材バンクに登録しました。

デイサービス施設、子育てサークルや保育園、幼稚園、児童館など幅広い場所での活動を続ける二人。「子どもたちが目を輝かせながら食い入るように見てくれたり、お年寄りの方たちが腹話術の人形をまるで自分の孫のような目で見てくださったり、皆さんに楽しい時間を過ごしていただけることが、私たちにとって、一番の喜びです」と東方田さんと樽谷さん。

それぞれ一人での活動も続けつつ、ジャンルが違うことでのメリットを活かしながら、今後もゆっくりと二人の歩幅を合わせて活動していくことを望んでいるそうです。



▲パネルシアターを演じている樽谷英子さん

まちづくりボランティア人材バンク 達人を紹介してもらうには...

まちづくりボランティア人材バンクは「自分の知識や技術を活かしてボランティア活動をしたい」達人と「ボランティアで来てほしい、教えてほしい」団体・グループをつなげるシステムです。

現在240名余りの達人が270件を超えるボランティア活動で登録しています。年間350件程度の達人紹介の申込みがあり、日程や活動内容等の条件が整った約300件が活動につながっています。

1. 人材バンク紹介申込書をつくる

どういう団体・グループが、いつ、どこで、誰を対象に、何をするのか、どの達人に何を希望するのかを所定の申込書へ記入します。決まっていない項目は空欄のままです。

※紹介申込書は、人材バンク登録内容リストや当プラザHP、ひろしま情報a-netから入手できます。

※申込書の作成が難しい場合はご相談ください。

2. 合人社ウエンディひと・まちプラザへ申込み

当プラザへ、FAX、Eメール、郵送、窓口へ持参のいずれかで申込書を提出します。

3. 当プラザから達人へ連絡・調整

紹介申込書の提出後、希望する達人へ当プラザから打診の連絡をし、紹介の可否を確認します。(連絡・調整には、1週間程度かかります)

4. 申込団体へ達人の連絡先をお知らせ

紹介の内諾が得られたら、達人の連絡先をお知らせします。達人との直接のやり取りのスタートです。速やかに正式な依頼の連絡を取りましょう。

実施に向けて、達人との十分な打合せを行いましょう。しっかり相談すれば、お互いに良いアイデアが生まれます。

Interview 2

風船らぼ 代表 たかぎ あさみ
高木 麻美さん

変幻自在、カラフルなバルーンアート。 子どもたちの笑顔が、やる気の源。

学生時代、イベント会場に来た子どもたちに風船を配るアルバイトを経験して、風船の魅力に引き込まれた高木麻美さん。その後、趣味が高じてイベント会場から自ラピエロに扮して風船を配ったり、独学でバルーンアートをマスターしたり、と少しずつ活動の幅を広げていきました。そして5年前に、あるイベントで大勢の人を前にバルーンアートを披露して喜んでもらったのをきっかけに活動を本格化。平成25年秋に、友人とユニット「風船らぼ」を結成。平成26年春に人材バンクに登録して、バルーンアートとワークショップの活動を始めました。

「自分たちのバルーンアートの技術を高め、もっと多くの人に風船で遊ぶ魅力を知ってもらい、楽しんでもらいたいと考え、ユニットを結成しました」と高木さん。

バルーンアートのレパートリーは、動物、植物、果物などおよそ20種類。まずは作る物を頭の中でイメージし、組み合わせる風船の色や数、太さ、膨らまし方などを考えて作っていきます。

「おとなしく座っている子どもたちの顔が、風船が膨らみ形になっていくうちに、どんどん引き込まれていく様子がよく分



▲イベント会場をバルーンアートで飾った様子

ります。その変わっていく表情を見ると、作っている私たちもうれしくなります。時には、サプライズで風船を割るマジックも織り交ぜるのですが、その驚いた表情もまた楽しいですね」と

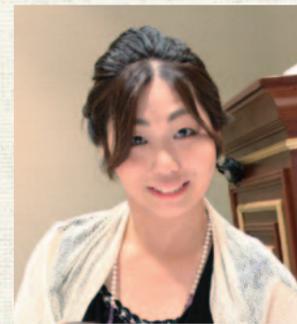
高木さん。

毎月定期的にメンバーが集まって作品の研究を行い、公民館からの依頼でパフォーマンスを披露したり、学童保育の

子どもたちを対象にしたバルーンアートのワークショップをボランティアで開くなどの活動に取り組んでいます。また最近では、バルーンアートのパフォーマンスを披露するだけでなく、ハロウィンやクリスマスにちなんで部屋を飾ったり、結婚式やイベント会場を彩る装飾も手掛けているそうです。

カラフルな風船がもたらす子どもたちの笑顔が力の源に活動している「風船らぼ」

の皆さん。これからもバルーンアートを通して、より多くの人たちと出会い、喜ばせる活動の場を広げていきたいと考えているそうです。



高木麻美さん



▲学童保育の子どもたちを対象にしたワークショップの様子

まちづくりボランティア 人材バンク発表会

今回ご紹介している方々は、「まちづくりボランティア人材バンク」に登録されています。

登録者が自らの達人ぶりを披露します。気軽にお立ち寄りください。

●日時/毎月第4土曜日 午後2時~4時

●場所/南棟1階ロビー

月日	内容	出演者名
12月26日(土)	自然の蔓を使ったお正月リース作り [定員40人(要事前申込)、材料費600円]	舞 ひかるさん
1月23日(土)	肩こり腰痛予防の血流改善ストレッチ ほか	濱西 智陽さん
2月27日(土)	ストレスをためない子育て	大下 政江さん
3月26日(土)	紙芝居上演とフリーディスカッション	人材バンク活性化委員会

※内容等変更になる場合があります。
※特に記載のないものは申込不要、参加費無料です。

達人紹介・達人登録などのお問い合わせ先

合人社ウエンディひと・まちプラザ(まちづくり市民交流プラザ)

☎(082)545-3911 FAX(082)545-3838

※当バンクは、政治、宗教、営利目的の活動での利用はできません。※達人紹介は、団体・グループからの依頼に限ります。個人活動や長期継続活動への紹介はできません。※達人は、実費弁償ボランティアとして活動します。交通費、資料代、材料費等の実費は、申込団体にご負担いただきます。